# Fintechの動向と 決済分野での可能性

一般社団法人Fintech協会 代表理事 会長 (株式会社インフキュリオン・グループ 代表取締役) 丸山 弘毅



## Fintech協会 (ベンチャー会員※一部抜粋)

様々なジャンルのFinTechスタートアップ 100社以上が参加





## Fintech協会(一般法人会員※一部抜粋)

日本を代表する企業など250社以上参加









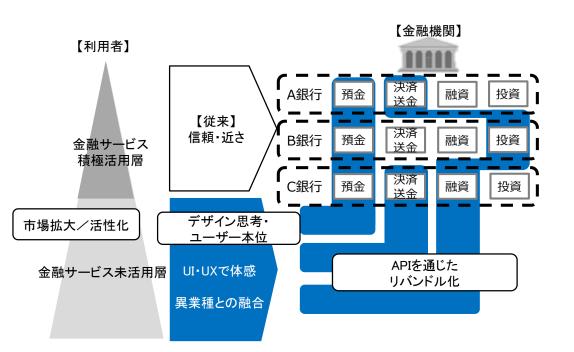


## Fintechの現状

フィンテックは、アンバンドル化による顧客体験向上や新技術による構造改革のフェーズから、金融行動の原因となる非金融サービスを入口に、異業種および金融業を横断したリバンドル化に進んでいる。

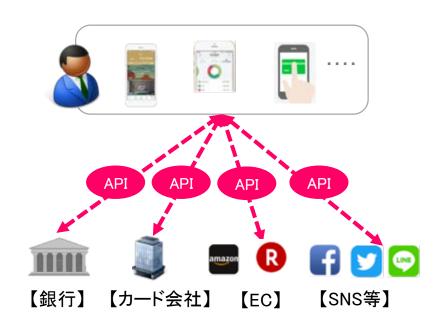
#### リバンドル化による金融市場拡大

金融・決済行動に限らないUXにより市場を拡大



#### 利用者起点

利用者は金融・決済サービスだけではなく、 全てのサービスと接点を保有



## APIを活用した連携

金融と外部のデータの活用により、資金ニーズを的確に把握した融資、与信や投資を正確に判断することが可能となる。このデータ連携方法としてオープンAPIの活用が期待される。

### 事業分野での活用 (例:クラウド会計)

#### 残高・明細参照/振込連携からその先のデータ蓄積・融資へ 多くの銀行でクラウド会計ソフトと法人口座のAPI連携を実施

(例) 三菱UFJ銀行(参照・振込)、みずほ銀行(参照)、ジャパンネット銀行(参照→融資)、住信SBIネット銀行(参照・振込)

### 更新系での活用 (例:貯金アプリ)

銀行と更新系APIで連携した自動貯金アプリ。 貯金目的(旅行・住宅等)と必要資金・時期などを還 (上記の他、カード利用の端数を用いたお釣り貯金も実施)





出所: Fintech協会 API説明資料より

### クレジットカードでのAPI活用

クレジットカード決済の分野でも、APIの活用による利便性向上・安全性向上が考え られる

#### 参照系(例:家計簿アプリ・残高アラート)

口座の残高不足や、クレジットカードの使いすぎなどをお知らせ

#### Money Forward ME



出所:マネーフォワードME HPより

#### 口座残高とクレジットカード引落予定額から。引落予定日の残高不足を通知



出所:ITリアライズ社 説明資料より

#### 更新系(例:セルフコントロール)

カード利用可否や上限額を自分で設定したり、 利用後にすぐに通知が来る仕組みが考えられる (ブランドプリペイド・デビットでは一部実現しているケースおあるが、 日本国内では多くの課題・制約が存在。更新系については継続検討)

#### 海外での例



クレジットカード自 体のON/OFFコン トロール



クレジットカード利 用可能エリアの設



クレジットカードが使 用できる加盟店業 種(ガソリンスタン ド等)の設定



クレジットカードが使 用できるチャネル (リアル・EC等) の指定

出所: Ondotサービスサイトより

### キャッシュレス化の重要性

現金・紙社会を改善することで、金融市場を活性化させられる可能性がある

#### 紙•現金社会

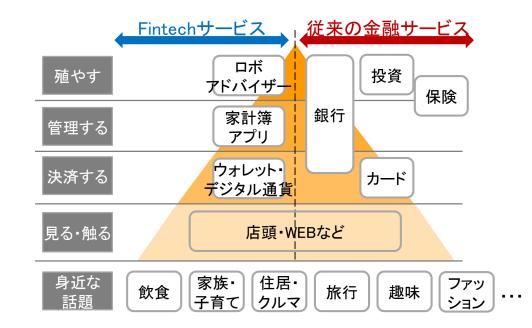
銀行口座やICT環境は普及しているが、現金・店舗が中心であり、進んだ金融サービスは広まっていない

### 入口としてのキャッシュレス

消費のデータ化 → 家計の可視化→ 投資促進・

		アメリカ	ヨーロッパ	日本
家計の 金融資産	規模	約8,400兆円	約3,000兆円	1,717兆円
	現金·預金	13%	34%	52%
	株式·投資信託等	52%	31%	17%
金融サービ ス 利用状況	カード発行枚数/人	3.8枚	3.1枚 *	2.1枚
	電子決済比率	45%	55% *	18%
	銀行口座保有率	90%	93%	95%
	インターネットバンキング利用率	35%	28% *	19%
通信環境	インターネット普及率	87%	78%	91%
	スマートフォン普及率	67%	80% *	54%

<sup>\*</sup> は英国のデータ

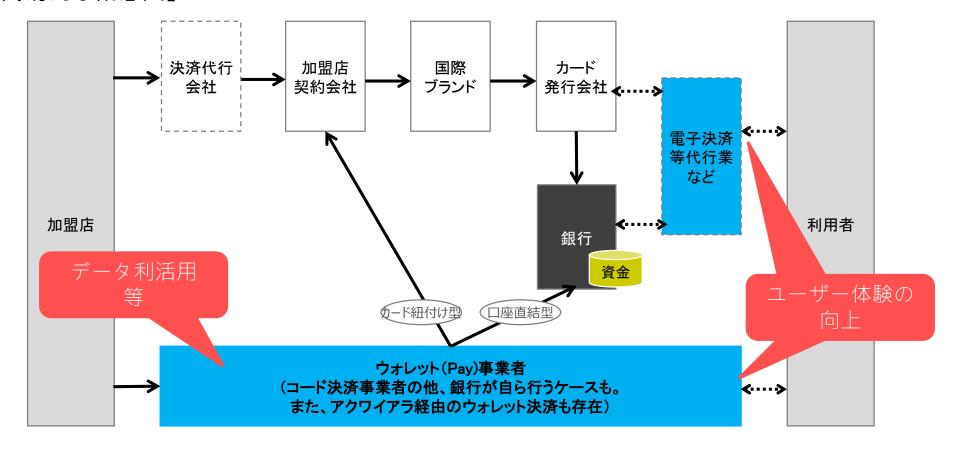


(出典)日本銀行、総務省、OECD、ITU、KPMG等による調査を元にインフキュリオン作成

### 決済分野における新たな役割

既存の決済事業者に加え、電子決済等代行業者などAPI接続する事業者や、 ウォレット(Pay)事業者なども登場している

#### 【簡易的な概念図】



### コード決済を中心とした新規参入例

QRコードやバーコードを用いたスマホ決済への新規参入が増加 紐づく支払い手段も、口座引き落とし・クレジット・プリペイド・ポイントなど様々。

#### 銀行による参入

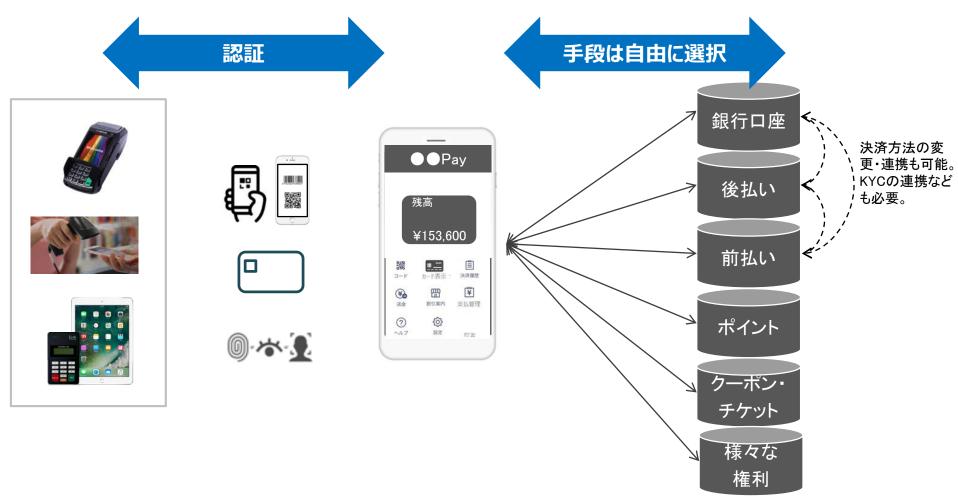
三菱UFJ銀行	JデビットのQR検討との報道、コイン構想
みずほ銀行	Jcoin-Payの発表 JデビットのQR検討との報道
三井住友銀行	JデビットのQR検討との報道
ゆうちょ銀行	QRコードを用いた「ゆうちょPay」の公表
りそな銀行・埼 玉りそな銀行	多彩な機能による「りそなウォレット」の開始 加盟店管理業務への参入を発表
横浜銀行	QRコードを用いた「はまPay」の開始
福岡銀行	QRコードを用いた「よかPay」の開始
常陽銀行	QRコードによる銀行直接決済を発表
大垣共立銀行	Origamiとの連携の発表

#### 非金融機関による参入

LINE Pay	プリペイド(ロ座直結チャージ・クレジットカード)で支払、QR・ 一次元・カード・Felicaで認証、個人間送金にも対応
楽天Pay	クレジットカード・ポイントで支払、QR・一次元バーコード認証
PayPay	プリペイド(口座直結チャージ・クレジットカード)で支払、QR・ 一次元で認証
Origami	クレジットカード・口座紐付け、QR・一次元バーコードで支払
Pring	クレジットカード・口座紐付け、QR・一次元バーコードで支払 個人間送金(資金移動業)にも対応
d払い	ポイントを用いたQRコード支払を実施
メルペイ	QRコード、iD(felica決済)を用いたモバイル決済を開始
セブンペイ	会社設立・ウォレット構想を公表
auペイ	QRコード決済の参入を発表

## 認証と決済の「分離」

認証手段=決済手段の時代から、認証と決済方法を自由に組み合わせる方向へ。 決済方法の複合化・横断化、本人確認の柔軟化・横断化などの整備も必要



## 行動導線の変化

従前の決済 引き落とし 退店

事前

入店

帰宅

### 予約•事前認証





### 自動決済・無人店舗



### 会員証・電子レシート





### 事前注文•決済



出所:各社ホームページ等から画像引用

### サブスクリプション





always でステキな「定額」と出会おう。

### 支払タイミング指定・変更







## 生活スタイルの変化

収入や支出のあり方が変化していく見込み。小口利用を前提としつつ、リアルタイムでの消費ニーズを満たすためのサービスが伸びていく可能性

収入のあり方

支出のあり方

これまでの 一般的な 例

#### 収入は月1回+賞与

(一つの企業から、月末に給与振込。 賞与が半年に一度) まとまった資金の 立て替え

#### 休日にショッピング

(まとめて買い物。賞与で買い物)

最近の 変化

#### 収入の小口化・多様化

- ・給与の前払いニーズの拡大
- ・副業/複業やフリーランスによる複数収入
- ・シェアリング (有形/無形財産の販売)
- ・ 高齢化 (年金受給・資産からの支払)

小口の キャッシュフロー 調整

### リアルタイム性

- ・C to C取引(今、この商品との出会い)
- インターネット購入、SNS(今欲しい・見せたい)
- ・コンテンツ (今見たい・聴きたい)

- M37 (10 ) ( 12 ) 73 7C17 13713
- ・サブスクリプション型(購入せず月額利用) ・シェアリング(利用する分・保有期間だけ)
  - IoT(利用した分だけ支払い)

## 割賦販売法への改正要望等の提言

### ● 小規模・低リスク取引における新規参入の促進

現代の消費者動向は極めて多様化しており、必ずしも、後払い=借金という発想では捉え切れない。「お金がない」からではなく、「お金があっても便利なので」分割払いといった層も一定数存在する。消費活動の変化やリスクの観点から見て、小規模・低リスクな一定の枠内で、包括支払可能見込額の調査が不要となる範囲を設けてほしい。また、その場合の登録要件(体制整備、財務要件等)についてもリスクベースの観点で緩和してほしい。

### ● 新たな与信判断方法の追加

現行の割賦販売法の与信管理は、指定信用情報機関の利用を義務付けるなどブラックデータを利用した与信判断に偏っており、必ずしも消費者の実態を正しく判断できない場合もあると思われる。現在のFintech企業の中には、より正確な判断が可能となる良質な消費者データを参照できる場合があり、別の観点からの与信調査も可能としてほしい。

### (ご参考)新たな後払いサービス

クレジットカードとは異なる、消費に即した後払いが注目されている。 (独自のホワイトデータ(取引履歴)や、新たな与信方法を活用)



atone

スマホだけで翌月払いができる 新しいカードレス決済





メルカリ、「メルペイ」で後払い事業に参入

ネット・IT フィンテック

2019/2/20 18:13

出所:各社ホームページ・報道等から画像引用

## 行動データと金融データの融合

日常行動と金融行動のデータを繋げ信用評価するサービスも進みつつある。今後は、行動や価値観・評価などを用いて判断していくことが考えられ、データの重要性は更に高まっている。



#### 日本での可能性



一般的な勤務先・年収情報に加え、 ライフスタイルや好みなどの情報、 みずほ銀行やソフトバンク等の取引情報から 利用者の可能性や信頼性をAIスコアに反映

出所: J.Score社HP掲載内容をもとに作成

**S** finbee



#### 新たな与信判断も考えられる

保有項目	判別内容
貯金目的	資金使途(旅行・住宅など)
貯金額/目標 金額	自己資本比率(必要総額に対する 貯金額と不足額)
期日・ 貯金ルール	計画性・堅実性(毎日積立・歩数 貯金・マイルールなどを守っているか)
名称・クリップ	具体的な商品名・価格
シェア貯金	誰と行動(家族など)

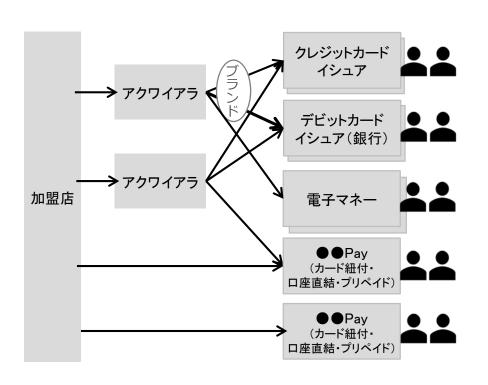
出所:経済産業省キャッシュレス・ビジョンより

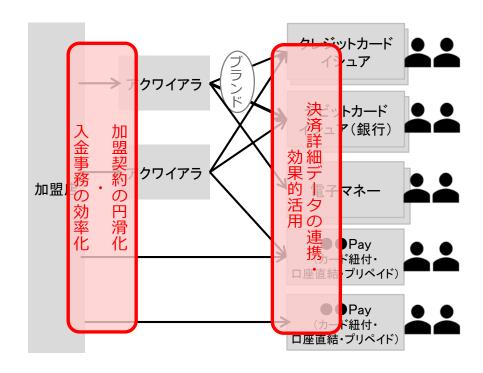
### 加盟店

キャッシュレスの普及に向け、様々な決済手段の加盟店拡大が見込まれるなか、 契約・審査の円滑化や、書面交付の扱いの検討も必要と思われる。 また、加盟店にとっても、データ活用のメリットが考えられる

#### 現状のイメージ

#### 理想的な形





## データ利活用

利用者・事業者・金融機関それぞれの情報を合わせることが重要。 利用者による自己情報へのアクセス・コントロールする立ち位置が必要

